

令和3年度第三者評価 改善状況報告書

令和4年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム白金の森【デイ】	施設所管課	保健福祉支援部高齢者支援課
所在地	港区白金台5-20-5	指定管理者	社会福祉法人奉優会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和4年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和4年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
さらなる利用率の向上を図ることをめざしている				
地域の約20か所の居宅介護事業所からの紹介を受けており、さらに毎月空き状況などをFAXで送信し、利用希望者の獲得にも取り組んでいる。各種の媒体を取り揃え、適切な広報体制になっていることがうかがえる。利用率については、コロナ禍の影響によって、デイサービスの利用控えがある中で、居宅介護支援事業所への情報提供を充実させたことで、利用者の紹介につながるなどの成果も報告されている。訪問調査時点で、概ね1日27～28名の利用に回復している。さらに、新規の利用者の獲得につながる積極的な情報提供を目指している。		身体を動かす機会、他ご利用者とのコミュニケーションの場を設け、オンラインプログラムの導入、入浴サービスの定期的な利用により、ご利用者の満足度向上に努めてきました。	引き続き、身体を動かす機会、ご利用者の気分転換、入浴サービスのご案内をし、サービス向上に努めていきます。オンラインプログラムやYouTubeの活用により、視野を広げていきます。情報提供の継続も徹底していきます。	利用者の満足度を向上することができるように、常に情報収集を行い、情報発信を行っていくよう指導します。
「行けば安心」という事業所を目指している				
今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響でサービス利用減少が懸念されたが、努力が実って安定している実績が残っている。しかし、コロナ禍の恐怖から利用を休む利用者がいることも確かである。事業所として、感染症対策の徹底をはじめ、ここへ来ることで逆に安心感が提供できる体制づくりをしていきたいとの抱負がある。「行けば安心」ということを、どのように分かりやすく利用者、家族、居宅介護支援事業所などに広報するか、と言った視点で整理し次年度へ繋げられたい。		新型コロナウイルス感染症の中、併設事業所との連携を図りながらゾーニングを徹底し、感染症対策の広報紙を作成しました。	併設事業所とのゾーニングの徹底継続と、ご利用者、職員の感染症対策の強化により、安心した体制づくりに努めていきます。	感染症対策を強化していることを、利用者とその家族に丁寧に伝えていくよう指導します。
事業所の特徴を明確にし、さらにサービス内容をステップアップさせることを目指している				

<p>事業所は特別養護老人ホームと併設しており、併設事業であるショートステイとも連携を図りながら高齢者が地域での生活を円滑に継続できるようなサービス提供に力を入れている。職員のスキルやモチベーションも高く、利用者本位のサービス提供がなされていることもうかがえる。ただしその反面、特徴が捉えにくい側面があるところも否めない。タイトな人員体制の中で一定以上のサービス提供がなされていることは高く評価できるが、さらに職員間での話し合いを充実させ、事業所の特徴を職員一人ひとりが認識できるようなマネジメントを構築していきたい。</p>		<p>併設されている、特別養護老人ホーム、ショートステイとは引き続き連携を図りながらサービス提供に努めています。オンラインプログラムの導入を取り入れ、新しいサービスの導入をし、ご利用者がよりよくサービスに活動参加ができる環境を作り努めました。毎月1度、常勤会議を開催し、毎日昼食後ミーティングを開催し、職員間の情報共有の徹底を行いました。</p>	<p>併設事業所との情報共有の強化をしていき、情報整理に努め、更なる連携に努めていきたいです。事業所の特徴を認識できるよう今後研修や職員間でのコミュニケーションを図り事業所運営していきます。</p>	<p>職員一人ひとりが、自施設の特徴を理解し、利用者の声に耳を傾けていくことでサービス内容に反映していくよう指導します。</p>